

# 2024年度 日本語教育学会秋季大会

2024年11月16日（土）・11月17日（日）  
姫路市市民会館（兵庫県姫路市）

◆開会式 16日（土）13時 大ホール◆

会長挨拶：西口光一（公益社団法人日本語教育学会会長）

司 会：宇佐美洋（公益社団法人日本語教育学会大会委員長）

日本語教育機関認定法（正式名称は「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律」）に基づく、認定日本語教育機関、登録日本語教員養成機関、登録実践研修機関の申請・審査・登録のプロセスが進行し、来年の4月には、認定日本語教育機関が誕生します。また、日本語教員養成機関と実践研修機関については申請のあった機関からこの秋と来年春に登録が認められて、各機関の教育や研修が開始される予定となっています。日本語教員関係では、11月に第1回の登録日本語教員試験が実施され、並行して現職者向けの経過措置講習会が実施されます。そして、この冬には文部科学省が管理するポータルサイトへの日本語教員の登録が始まる予定です。このように認定法に基づく機関や教員の整備が進行しつつあります。制度作りが一通り完了し、こうして制度が具体化されていく中で、「日本語教育の実践と学術研究の振興を図り、もって教育・学術の交流及び発展に寄与し、世界の人びとの相互理解を促進する」ことを目的とする日本語教育学会は、公益に資するべきことを自覚しつつどのような事業や活動を積極的に計画し実施するべきかが改めて問われています。

「日本語教育学の俯瞰図」（学会ウェブサイト「むすぶ」参照）で示されているように日本語教育の実践と日本語教育研究は相互活性的な関係にあります。日本語教育研究は、日本語教育の実践を鑑みてその基盤や教育をめぐる諸側面や教育実践の方法などで重要な研究課題を見出し、それを研究テーマとして探究し考究しなければなりません。一方で、教育実践の側は、日本語教育研究に関心を寄せ、それらを吟味してそこから得られる洞察や重要な視点を採り入れて、実践を一層高度化することが期待されています。また教育実践者の立場から研究者に対して研究課題を提案したり、研究者と協働して研究に携わることも重要です。今大会初日の午前に実施される一般公開プログラム「外国介護人材の日本語教育はどうあるべきか—協働への新たな文脈—」はそうした試みの一例だと言えるでしょう。

日本語教育学会としては、今後も、春と秋の大会そして学会誌を主要な機会としそれ以外の機会も活用して、実践と研究の相互的な活性を一層促進し、相互活性を通して実践のさらなる高度化と学術研究の推進を支援していきます。そして、日本語教育ということ全般に関心を向ける学会としては、個々の研究分野やテーマの研究を促進するだけでなく、日本語の習得と同教育を含む習得支援やことばを仲立ちとした人と人の交流などを俯瞰的に見て、それを包括的に捉えてその本質を探究するような研究や実践を進めることが今後ますます重要になると考えています。

公益社会法人日本語教育学会会長 西口光一

## 目次

|               |    |
|---------------|----|
| 大会日程          | 3  |
| 一般公開プログラム     | 4  |
| 発表一覧：パネルセッション | 5  |
| 発表一覧：口頭発表     | 6  |
| 発表一覧：ポスター発表   | 10 |
| 同時開催イベント      | 13 |
| 会場案内：会場への交通案内 | 22 |
| 会場案内：会場配置図    | 23 |

◆主催：公益社団法人日本語教育学会

◆大会参加費：【事前登録 ※お支払い時に手数料がかかります】

会員 3,500 円

会員（学生証をお持ちの方） 2,000 円

会員でない方 5,000 円

【当日受付】一律 5,000 円

◆懇親会費：【事前登録（先着 100 名）※お支払い時に手数料がかかります】一律 6,600 円

◆事前登録期間：2024 年 10 月 16 日（水）～ 11 月 5 日（火）

◆問合せ：03-3262-4291/E-mail:taikai-office@nkg.or.jp（メールは前日まで）

今大会では、公益社団法人姫路観光コンベンションビューローの開催支援補助金の申請にあたり、参加者名等の報告が必要となります。ご登録いただいた個人情報は、本申請における実績報告のためのみに使用させていただきます。ご協力のほど、よろしくご願ひ申し上げます。

大会参加にあたり、手話通訳者・託児等の費用助成を希望する場合は、ウェブサイト上のご案内をご確認いただきまして、所定の期日までに申請をお願いいたします。

その他、なんらかの配慮を要する場合は、10月31日までに上記問合せまでご相談ください。座席の確保など可能な範囲で対応いたします。また、期日までにご相談がない場合は対応できませんのでご了承ください。

# ◆大会日程◆

\* 印のイベントの概要は、13～21ページをご覧ください。

| 11月16日(土)  | 11月17日(日)   |
|--|---|
| <p>9:00 有料プログラム</p> <p>10:00 2階：大ホール<br/>一般公開プログラム (無料)</p> <p>11:00 2階：大ホール<br/>12:00-12:00 無料プログラム</p> <p>12:10-12:10 5階：第11会議室<br/>*わかばさん</p> <p>13:00-13:50 2階：大ホール<br/>開会式<br/>授賞式</p> <p>14:00-15:30 2階：大ホール<br/>3階：第2会議室<br/>4階：第6会議室<br/>パネルセッション 第1部<br/>14:00-15:30 2階：展示室<br/>交流ひろば 前半</p> <p>15:45-17:15 2階：大ホール<br/>3階：第2会議室<br/>パネルセッション 第2部<br/>15:45-17:15 2階：展示室<br/>交流ひろば 後半</p> <p>18:00-20:00 姫路市市民会館隣接<br/>モリス 2階<br/>懇親会</p> | <p>9:00 有料プログラム</p> <p>10:00 2階：大ホール<br/>9:30-12:00 2階：大ホール<br/>3階：第2会議室<br/>4階：第6会議室<br/>口頭発表 午前の部<br/>(各発表30分)</p> <p>11:00 2階：大ホール<br/>12:00-12:50 2階：大ホール<br/>3階：第2会議室<br/>4階：第6会議室<br/>*日本語教育学会<br/>*国際連携委員会<br/>*調査研究推進セミナー</p> <p>12:00-17:00 2階：大ホールホワイエ 2<br/>* 賛助団体会員出展ブース (書籍展示・団体紹介等) (無料)<br/>受付 (12:00-17:00) *わかば・コンシエージュ (12:00-16:00)</p> <p>13:30-16:00 2階：大ホール<br/>3階：第2会議室<br/>4階：第6会議室<br/>口頭発表 午後の部<br/>(各発表30分)</p> <p>14:30-16:00 2階：展示室<br/>ポスター発表 第3部</p> <p>15:00 2階：展示室<br/>ポスター発表 第2部</p> <p>16:00 2階：展示室<br/>ポスター発表 第1部</p> <p>17:00 2階：大ホールホワイエ 2<br/>8:45-15:00 2階：大ホールホワイエ 2<br/>* 賛助団体会員出展ブース (書籍展示・団体紹介等) (無料)<br/>2階：大ホール入口前<br/>受付 (8:45-14:00) *わかば・コンシエージュ (9:00-13:00)</p> <p>18:00 無料プログラム</p> |

\* 無料でご参加いただけます。

## シンポジウム

### 外国介護人材の日本語教育はどうあるべきか —協働への新たな文脈—

11月16日(土) 10:00 ~ 12:00 2階 大ホール

本シンポジウムでは、介護の日本語教育を取り巻くステークホルダーとの「協働」という新たな文脈を描くことを目指し、雇用者や外国介護人材の視点を加え「介護の日本語教育のありかた」を多角的に検討します。まず、複雑な受け入れ制度について知り、整理します。次に、介護福祉学の視点から、介護の日本語教育に付随する周辺環境について知り、考えます。そして、特定技能や技能実習（育成就労）の資格で就労する介護人材への日本語教育に携わる介護職と、その学び手である外国介護人材から、介護の日本語教育にまつわる現場の声を聴きます。これら「知る」「整理する」「考える」「現場の声を聴く」という段階を経ることによって、日本語教師はどうやって協働を図りステークホルダーを繋ぐことができるのか、ひいては「外国介護人材の日本語教育はどうあるべきか」を考えます。そして、今後も増加が見込まれる外国介護人材に対し、「日本語教育はどのように社会的な責任を果たしていくべきなのか」をともに議論します。

#### パネリスト：

#### 介護の日本語教育を取り巻く周辺環境の声を「知る」「考える」

—介護福祉学の視点から—

天野ゆかり氏  
(静岡県立大学 講師)

#### 現場の声を「知る」「考える」

—介護施設の視点から—

福嶋裕美子氏  
(学校法人福嶋学園 理事長 / 株式会社ドルフィン・エイド 代表取締役)

#### 外国人当事者の声を「知る」「考える」

—外国介護人材の視点から—

アガ・ブラマンティア・ソビルハック氏  
(社会福祉法人怡土福社会介護老人福祉施設池辺 介護福祉士)

#### 外国介護人材を取り巻く制度を「知る」「整理する」

—日本語教師に求められる役割—

二文字屋修氏  
(AHPネットワークス 代表理事)

#### 進行・趣旨説明：

神村初美氏 (創価大学 教授)

## パネルセッション

### 第1部 [14:00 ~ 15:30 (90分)]

| 第1会場  | 第2会場   | 第3会場  |
|---|--|---|
| <p>2階 大ホール<br/>司会：今西利之<br/>(京都産業大学)</p>   | <p>3階 第2会議室 中ホール<br/>司会：大河内瞳<br/>(神戸大学)</p>  | <p>4階 第6会議室<br/>司会：久保田美子<br/>(早稲田大学)</p>  |
| <p>①<br/>生成AIが引き起こす日本語教育と研究のパラダイムシフト</p> <p>今井新悟 (日本語教育支援協会)<br/>吉川達 (立命館大学)<br/>李文鑫 (天津師範大学)</p> | <p>③<br/>文化間移動をする若者の社会的包摂における日本語教育の役割—高等学校における「日本語指導」の「特別の教育課程」化とその導入状況から—</p> <p>齋藤ひろみ (東京学芸大学)<br/>米本和弘 (同)<br/>市瀬智紀 (宮城教育大学)<br/>ピニロス・マツダ デレク・ケンジ (群馬大学)<br/>佐屋麻利子 (神奈川県立相模向陽館高等学校)</p> | <p>⑤<br/>日本語教育を社会にひらく実践の批判的検討—複数の視点を交差させる協働省察の可能性—</p> <p>佐野香織 (長崎国際大学)<br/>三代純平 (武蔵野美術大学)<br/>福村真紀子 (茨城大学)</p> |

### 第2部 [15:45 ~ 17:15 (90分)]

| 第1会場   | 第2会場  |
|--|---|
| <p>2階 大ホール<br/>司会：田中祐輔<br/>(筑波大学)</p>  | <p>3階 第2会議室 中ホール<br/>司会：富谷玲子<br/>(神奈川大学)</p>  |
| <p>②<br/>『日本語話題別会話コーパス：J-TOCC』に見られる話題ごとの談話の型</p> <p>中俣尚己 (大阪大学)<br/>清水由貴子 (聖心女子大学)<br/>建石始 (神戸女学院大学)</p> | <p>④<br/>日本語教育政策研究における社会調査と二次分析</p> <p>神吉宇一 (武蔵野大学)<br/>寺沢拓敬 (関西学院大学)<br/>佐藤剛裕 (横浜デザイン学院)<br/>本林響子 (東京大学)</p> |

## 口頭発表 午前の部 [9:30 ~ 12:00 (各 30 分)]

|               | 第 1 会場  | 第 2 会場  |
|---------------|---|---|
|               | 2 階 大ホール<br>司会：野田尚史<br>(日本大学)   | 3 階 第 2 会議室 中ホール<br>司会：神村初美<br>(創価大学)   |
| 9:30 ~ 10:00  | <p>① 生成 AI の誤用訂正に日本語教師はどの程度納得するのか—生成 AI を有能な添削先生に育てるための取り組み—</p> <p>李在鎬 (早稲田大学)<br/>岩崎拓也 (筑波大学)<br/>村田裕美子 (ミュンヘン大学)<br/>SRDANOVIC Irena (プーラ大学)</p> | <p>⑤ 分野を越えた「専門家」の協働が必要となる場における「日本語教師の専門性」再考—「専門家間において対話的に構築される専門性」という視点から—</p> <p>大平幸 (四国大学)</p>    |
| 10:10 ~ 10:40 | <p>② 医療場面における「やさしい日本語」の効果—外国人の日本語レベルとの関係—</p> <p>岩田一成 (聖心女子大学)<br/>森篤嗣 (武庫川女子大学)<br/>柳田直美 (早稲田大学)</p>   | <p>⑥ 外国人児童生徒教育を担う指導主事の視座—教育行政の総合性／専門性の狭間における模索過程—</p> <p>南浦涼介 (広島大学)</p>                            |
| 10:50 ~ 11:20 | <p>③ 中国語母語話者による漢字語彙の転移と日本語語彙力の相関性—日本語語彙データベースの横断的活用から—</p> <p>呂建輝 (岡山大学)</p>  | <p>⑦ 日本語教育専門家と AI の共創による日本近代文学の多レベル多読教材開発の研究—アイデアユニットを活用した新しい協働アプローチ—</p> <p>甘利実乃 (東京外国語大学大学院生)</p> |
| 11:30 ~ 12:00 | <p>④ 機関 Can-do リストの CEFR レベルとの対応づけの試み—Comparative judgement による困難度スコアによる検討—</p> <p>鈴木美加 (東京外国語大学)</p>   | <p>⑧ 戦前台湾の学校制度改編期に見る公学校教員の経過措置の研究</p> <p>泉史生 (千葉モードビジネス専門学校)</p>                                    |

口頭発表 午前の部 [9:30 ~ 12:00 (各 30 分)]

第3会場

4階 第6会議室  
司会：山根（吉長）智恵  
（山陽学園短期大学）

- |               |   |
|---------------|---|
| 9:30 ~ 10:00  | <p>⑨<br/>発話頭の格助詞「に」の談話的機能<br/><br/>平山紫帆（拓殖大学）</p>                                 |
| 10:10 ~ 10:40 | <p>⑩<br/>日中接触場面における異なる意見に対する応答と後続発話の展開<br/><br/>龔詩雅（名古屋大学大学院生）</p>                |
| 10:50 ~ 11:20 | <p>⑪<br/>話し手の主観性を表す表現の使用について—日韓中話者の4コマ漫画のストーリーテリング調査を通して—<br/><br/>許明子（名古屋大学）</p> |
| 11:30 ~ 12:00 | <p>⑫<br/>ミャンマー人訪問介護員の障がい者支援における「聞き返し」のストラテジー<br/><br/>木田章代（フリーランス）</p>            |

## 口頭発表 午後の部 [13:30 ~ 16:00 (各 30 分)]

|               | 第 1 会場  | 第 2 会場  |
|---------------|---|---|
|               | 2 階 大ホール<br>司会：吉川達<br>(立命館大学)   | 3 階 第 2 会議室 中ホール<br>司会：浅津嘉之<br>(関西学院大学)                                       |
| 13:30 ~ 14:00 | <p>⑬ 日本語教育専攻の大学院生が地域日本語教室の講師を務めることの意味—元大学院生講師に対するアンケート調査から—</p> <p>古田梨乃 (新潟大学)<br/>平田友香 (国際教養大学)<br/>宮淑 (モンテレイ大学)</p>                             | <p>⑰ 日本語教育におけるサービス・ラーニングの実践—協働学習にみられる「互惠性」の検証—</p> <p>栗山恵子 (熊本大学)</p>         |
| 14:10 ~ 14:40 | <p>⑭ 地方公共団体が進める地域日本語教育施策の整理—1 県 3 市町におけるアクション・リサーチに基づいた考察—</p> <p>深江新太郎 (九州大学大学院生)</p>  | <p>⑱ 日本語 CBI の成果検証—知識の可搬性に焦点を当てて—</p> <p>小山悟 (九州大学)</p>                       |
| 14:50 ~ 15:20 | <p>⑮ 生成 AI は日本語読解問題にどのくらい解答できるか—日本留学試験を対象として—</p> <p>小野塚若菜 (ベネッセ教育総合研究所)・岩崎拓也 (筑波大学)・村田裕美子 (ミュンヘン大学)・李在鎬 (早稲田大学)・若井誠二 (カーロリ・ガーシュパール・カルヴィン派大学)</p> | <p>⑲ プロジェクトワークにおけるピア・ラーニングが第二言語不安に及ぼす影響—初級日本語学習者の場合—</p> <p>金丸真巳 (フリーランス)</p> |
| 15:30 ~ 16:00 | <p>⑯ 日本語教育は多文化社会の防災・減災に貢献できるか</p> <p>松岡洋子 (岩手大学)</p>  | <p>⑳ CLIL 的アプローチによる海外日本語教育実習での実習生の学び</p> <p>野々口ちとせ (甲南大学)</p>                 |

口頭発表 午後の部 [13:30 ~ 16:00 (各 30 分)]

第3会場

4階 第6会議室  
司会：陳秀茵  
(東洋大学)

- |               |   |
|---------------|---|
| 13:30 ~ 14:00 | <p>⑲ 海外継承日本語教育における<br/>“Invisible Work” ー日中国際結<br/>婚家庭日本人母親の「葛藤」要因<br/>に関する社会言語学的一考察ー</p> <p>小幡佳菜絵 (清華大学大学院生)</p> |
| 14:10 ~ 14:40 | <p>⑳ 自発的・継続的に日本語学<br/>校の内部研修に参加する非常<br/>勤日本語教師の認識ー授業観<br/>察の組織化に向けた一考察ー</p> <p>野瀬由季子 (大阪教育大学)</p>                 |
| 14:50 ~ 15:20 | <p>㉑ 香港の日本語教育現場にお<br/>ける媒介語とラポール構築の<br/>関係ーポジショナリティの視点<br/>からー</p> <p>野村和之 (千葉大学)</p>                             |
| 15:30 ~ 16:00 | <p>㉒ CLD 児の自己表現・日本語<br/>学習に関するビリーフ形成・<br/>変容過程ーパラグアイの日本語<br/>学校の音楽活動に着目してー</p> <p>多々内風花 (フリーランス)</p>              |

ポスター発表

第1部 [10:50 ~ 12:20 (90分)]

2階 展示室

①

学習者の生成 AI 利用に対する日本語教師の葛藤

毛利貴美 (岡山大学)

②

日本語教師に求められる「コミュニケーション能力」—民間教育機関の採用担当者に対する調査結果から—

牛窪隆太 (東洋大学)  
秋田美帆 (岡山大学)  
徳田淳子 (東京中央日本語学院)

③

日本語教育実習における実習生の教案の変容過程—教案の作成と修正作業を通して—

三好優花 (筑波大学)  
太田陽子 (一橋大学)

④

「痛!」をどう教えるか—イ落ち構文を日本語教育の視点で考える—

小出寿彦 (東京福祉大学)  
津坂朋宏 (同)

⑤

日本人看護師への日本語教育養成についての検討—ブラチナナースの活用を踏まえて—

山西智香 (早稲田大学大学院生)

⑥

留学生のアカデミック・ライティングにおける移行期の特徴—ピア・レスポンスと自己推敲のプロセスに着目して—

安高紀子 (明治大学)  
生天目知美 (東京海洋大学)

⑦

「日本語格助詞データベース」における定義文の定式化と定義語彙の集約

尾沼玄也 (拓殖大学)  
砂川有里子 (筑波大学名誉教授)  
関かおる (神田外語大学)

⑧

中国語を母語とする日本語学習者の発話における話し始めと話題転換時の使用語の特徴—日本語母語話者と比較して—

中原郷子 (長崎外国語大学)  
安田真由美 (同)

⑨

研究指導会話における相互行為分析—学生による引き取りと引き込みに注目して—

宮永愛子 (山口大学)

⑩

論文理解過程の語りに現れる恣意的な読み加え—「日本語非母語話者の読解コーパス」を用いた分析の試み—

佐藤蘭礼 (フリーランス)

⑪

非正規雇用で働く日本語教師の労働環境—北海道における実態調査から—

藤原安佐 (北星学園大学)  
久野弓枝 (札幌大学)

⑫

地域日本語教育専門人材養成講座の地域への波及効果と課題

内海由美子 (山形大学)  
松岡洋子 (岩手大学)  
嶋ちはる (国際教養大学)  
仁科浩美 (山形大学)  
今泉智子 (同)

## ポスター発表

### 第2部 [12:40 ~ 14:10 (90分)]

| 2階 展示室   |   |   |
|--|---|---|
| <p>⑬ ChatGPTによる技能実習生向け初級会話練習の実践報告</p> <p>永富聡 (国際教養大学大学院生)</p>  | <p>⑭ 当該発表は、発表者の都合により中止となりました。</p>   | <p>⑮ 育児休業中の日本語教師の職場復帰に対する思いとその背景</p> <p>菅智穂 (立命館大学)<br/>大河内瞳 (神戸大学)<br/>杉本香 (大阪大谷大学)</p>  |
| <p>⑯ 支援者への支援を目的とした介護の日本語ワークショップ開催の試み</p> <p>中川健司 (介護の日本語学習支援協会)・齊藤真美 (同)・布尾勝一郎 (同)・角南北斗 (同)・奥村匡子 (神奈川大学)</p>   | <p>⑰ 三療を学ぶ留学生のための複合語に配慮した生理学分野語彙リストの作成—国家試験過去問題の出現語彙調査より—</p> <p>河住有希子 (日本工業大学)<br/>藤田恵 (日本国際教育支援協会)</p>      | <p>⑱ アスリート留学生が持つ特性と日本語クラス—日本語教員へのインタビューから見えてきた現状と課題—</p> <p>日野純子 (帝京大学)・正宗鈴香 (大東文化大学)・中山由佳 (山梨学院大学)・東会娟 (帝京大学)・岡本能里子 (東京国際大学)</p> |
| <p>⑲ 子どものことばの教育に関する研修の内容・構成の検討—学校教員・地域支援者を対象とする研修のアンケートから—</p> <p>原瑞穂 (東京学芸大学)・谷啓子 (同)・河野俊之 (横浜国立大学)・見世千賀子 (東京学芸大学)・小西円 (同)・工藤聖子 (同)・市瀬智紀 (宮城教育大学)・米本和弘 (東京学芸大学)・齋藤ひろみ (同)</p> | <p>⑳ 日本語習得における文構造の複雑さの捉え方—T-ユニットを用いた指標の問題点と新たな提案—</p> <p>倉品さやか (国際大学)<br/>細井陽子 (山野日本語学校)<br/>迫田久美子 (広島大学)</p> | <p>㉑ 3者会話におけるスピーチレベル・シフトの使用実態—先輩1名を交えた友人2名の会話でのダウンシフトに着目して—</p> <p>孫浩淞 (東京外国語大学大学院生)</p>  |
| <p>㉒ 「特別の教育課程」による日本語指導の課題—A市教育委員会職員へのインタビュー調査から—</p> <p>村上智里 (関西大学)</p>  | <p>㉓ 入門レベルの生活者を対象とした地域日本語教材の開発</p> <p>中川歩美 (兵庫県国際交流協会)</p>  | <p>㉔ 元ホワイトカラーのブラジル人成人日本語学習者が抱く不安の要因—母国での職業経験によって培われた言語意識との関わりから—</p> <p>塚原真以子 (京都外国語大学大学院生)</p>                                   |

## ポスター発表

### 第3部 [14:30 ~ 16:00 (90分)]

#### 2階 展示室

②5

IDの第一原理を活用した授業設計と実践―「方略」に着目して―

久保田文字 (京進ランゲージアカデミー)

②6

日本語教育実習におけるIRF連鎖構造の変容―実習生のI(イニシエーション)発話に着目して―

張曦冉 (国立国語研究所)  
徐煉 (同)  
柳田直美 (早稲田大学)

②7

日本語母語話者が書き言葉のやさしい日本語使用をためらう要因―研修を受講した大学技術職員への調査から―

松岡里奈 (大阪大学)

②8

外国人看護師の口頭による「申し送り」の問題点は何か―新人日本人看護師との比較から―

早川晶子 (筑波大学)

②9

元外国人スポーツ留学生の社会人チームにおける役割と日本語使用―(元)社会人競技者へのインタビューからみえたこと―

渡辺史央 (京都産業大学)  
今西利之 (同)

③0

外国人幼児との対話的関係の構築―フレイレを手掛かりとした日本語教育の実現―

石垣尚子 (国際日本語普及協会)

③1

日本語教育専門家が地域の外国人児童生徒の日本語支援のためにできること―受け入れ経験の乏しい外国人児童生徒急増地域での支援体制構築に向けて―

萩原幸司 (城西国際大学)  
林千賀 (同)  
高柳真理 (同)

③2

情報修正場面における学習者の「んです」の理解と使用の関連性

范一楠 (横浜国立大学)

③3

日タイ接触場面の会話における言いさし発話の分析―会話進行上の問題処理に注目して―

WIMONSARAWONG APAPOHN  
(東京外国語大学大学院生)

③4

少年院に在院する外国につながる少年向け社会適応プログラム開発―市民リテラシーの3要素からの分析―

山下千聖 (早稲田大学大学院生)  
宮崎里司 (早稲田大学)

③5

台湾における生涯学習の場「長青学苑」で日本語を学ぶ学習者の実態と学習動機

東弘子 (愛知県立大学)

③6

理系大学への進学を目指す留学生を対象とした予備教育における導入漢字の検討―中学・高校理系教科書の索引に出現する漢字の分析を通して―

下村朱有美 (大阪大学)  
日比伊奈穂 (同)

## 賛助団体会員出展ブース

[11月16日(土) 12:00～17:00, 17日(日) 8:45～15:00]

会場：2階 大ホールホワイエ2

出展：公益社団法人日本語教育学会 賛助団体会員

本会には賛助会員という会員種別があり、全国の出版社、書店、日本語学校、企業、NPO 団体等、51 団体が入会しています。(2024 年 9 月現在)

賛助会員の皆様からは、日本語教育全体の発展と本会の運営の促進のために多大なご協力をいただいています。

「賛助団体会員出展ブース」では、各団体の紹介や、最新情報の発信、書籍・教材のラインアップ展示等を行います。最新の書籍等を手にとって見られる絶好の機会かと思えます。

また、賛助会員と大会参加者との交流、参加者間のネットワーク作りの促進、日本語教育及び関連領域の情報提供、情報交流、広報等の場としてもお役立てください。

ブースは土日を通して設置していますので、会期中は何度でも、どうぞお気軽に足をお運びください。

## わかば・コンシェルジュ

[11月16日(土) 12:00～16:00, 17日(日) 9:00～13:00]

会場：2階 大ホール入口前

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

学会参加についてわからないことがあったら、コンシェルジュブースに立ち寄ってください。黄色い法被を着たチャレンジ支援委員がみなさんの質問・疑問にお答えします。

※わかばコンシェルジュは上記時間帯のうち、委員がブースに駐在する時間のみの対応となります。

## わかばさんいらっしやい

[11月16日(土) 12:10 ~ 12:55]

会場：2階 大ホール入口前

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

「わかばさん」とは、日本語教育を学ぶ学生・大学院生、日本語教育を始めたばかりの方、教育経験は長くても研究活動を始めたばかりの方、学会参加が初めての方などです。チャレンジ支援委員会は、わかばさんがスムーズに大会に参加できるようにサポートします。

<わかばさんいらっしやい>

「わかばさんいらっしやい」では、大会で行われる各種発表の形式、聞く発表の選び方、大会の楽しみ方など大会参加のガイダンスを行います。同時にわかばさん同士の情報交換、ネットワーク作りのための交流会を開催します。事前申し込みを推奨しますが、人数に余裕があれば飛び込み参加も受け付けます。ぜひご参加ください。

## 交流ひろば

[11月16日(土) 第1部 14:00 ~ 15:30 / 第2部 15:45 ~ 17:15]

会場：2階展示室

主催：公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会

支部活動委員会では、「人をつなぎ、社会を作る」という理念体系に掲げられた使命と「日本語教育の情報交流を促進する」という事業方針を実現するために、秋季大会でも「交流ひろば」を開催します。

「交流ひろば」では出展者の教育実践や研究の紹介・共有、そして参加者との情報・意見交換が行われます。審査を経た発表ではありませんが、出展、及び参加者との議論を通じ、同じ興味や問題意識を持つ者同士がネットワークを拡げることを目的とした企画です。

本大会では、教材やe-ラーニングサイト、及びそれらの活用方法などや、評価、学習環境作りなど、日々の日本語教育に活用できる知識・取り組みが紹介されます。また、多文化共生やジェンダー、合理的配慮など教師として考えておくべき課題も共有されます。実践的な取り組み・教育現場の課題の共有を通して、活発な交流が生まれることを期待しています。ぜひ、一度足を運んで意見・情報交換に参加してみてください。

\* 出展の詳細は、17 ~ 20ページをご覧ください。

## 地域発信企画

[11月17日(日) 12:10 ~ 13:20]

会場：3階大ホールホワイエ

主催：公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会

地域発信企画は、日本語教育学会秋季大会の開催地を対象地域としながら、その地域の日本語教育の様々な取り組みや成果を全国に発信することを目的に開催されます。

総務省の人口動態調査によると、2024年1月1日時点で在日外国人の人口が332万3374人に達し、初めて300万人を超えました。今後、各地で外国にルーツを持つ人々との関わりが一層活発化することが予想されます。こうした状況を踏まえ、地域発信企画では秋季大会開催地である近畿地区における多文化共生の取り組みについて共有します。6つの団体がそれぞれ行っている日本語学習支援やイベントの事例を紹介し、参加者のみなさまと共に、外国ルーツの市民との共生のあり方について考える機会にしたいと考えています。当日の情報・意見交換を通じ、今後の新たな活動のためのヒントを得たり、共通の課題解決の方策について考えたりする場となるよう、積極的なご参加をお待ちしております。

\* 出展の詳細は、21ページをご覧ください。

## 調査研究推進セミナー

### 「実践研究のすすめ—実践と理論の往還の方法—」

[11月17日(日) 12:10 ~ 12:50]

会場：4階第6会議室

主催：公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員会

本企画は、調査研究活動の推進と研究倫理の質の向上を目的としています。この度のセミナーでは、昭和女子大学の池田玲子氏を講師に迎え、実践と理論の往還の方法、研究倫理について池田氏の知見を交えながらお話しいただきます。これから実践研究を始めようとしている方、既に実践研究に取り組んでいる方、ぜひご参加ください。

当日は、以下のスケジュールで進める予定です。

- ・ 12:10 ~ 12:40 趣旨説明・講師講演
- ・ 12:40 ~ 12:50 質疑応答

セミナーへの事前申込は不要ですが、大会への参加申込者を対象としています。当日の来場先着順です。皆様のご参加をお待ちしています。

## 日本語教育学会のこれからを考える（説明会）

〔11月17日（日）12:10～12:50〕

会場：2階大ホール

主催：公益社団法人日本語教育学会

2013年に日本語教育学会（以下、本学会）が公益社団法人に移行してから10年以上が経過し、本学会の活動状況も、日本語教育をとりまく社会情勢も大きく変わってきました。こうした状況を踏まえ、本学会は運営の在り方を見直す時期に来ていること、2024年度末の第3次中期計画の骨子策定を見直しの機会としたいということを、去る春季大会の会長・副会長による説明会でお伝えしました（詳細は本学会の「むすぶ」サイト内の「日本語教育学会の現状とこれから」ページ参照のこと）。

その後、本学会では現在に至るまで、代議員総会や理事会、常任理事会、全委員会及び全委員会委員長会議、事務局で学会運営全体について検討する場を繰り返し設けてきました。秋季大会では、まず、上記の種々の集まりで出された意見を会長・副会長がご説明します。その上で、第3次中期計画策定にあたって会員のみなさまと共有したい基本認識や、中長期的な学会運営の展望についてお話しします。当日は質疑応答の時間も設けますので、みなさまも積極的にご質問やコメントをお寄せください。

## 日本語教育グローバル人材奨励プログラム説明会

〔11月17日（日）12:10～12:50〕

会場：3階第2会議室中ホール

主催：公益社団法人日本語教育学会国際連携委員会

公益社団法人日本語教育学会国際連携委員会では、一般社団法人尚友倶楽部の助成を受け日本語教育グローバル人材奨励プログラムを実施しています。このプログラムは、若手の研究者・実践者が海外の協力者とともに調査や実践を行うことで、情報共有の促進と日本語教育の意義と課題に関する相互理解を深めてもらうことがねらいです。これまで、多くの若手の研究者・実践者が助成を受け、さまざまな国・地域で調査や実践を行いました。活動終了後も、各国の方々との交流を深めたり、さらなる実践の展開をしている受給者の方々も多くいらっしゃいます。日本の若い世代が国内志向であるという指摘がある中、本プログラムを通して、海外の日本語教育に触れてもらうことは重要だと考えており、学部生・大学院生・若手教員等を対象に本プログラムのことを知っていただきたいと考えています。説明会では、本プログラムに応募を考えている方、海外での調査や実践に興味のある方、またはそのような方々を指導している教員のみなさまにお越しいただき、本プログラムの概要および過去の受給者による活動紹介を共有したいと考えています。

## 前半【14:00～15:30】

## ①ブラジル人児童生徒のための動画読解教材

山根 (吉長) 智恵 (山陽学園短期大学), ニ口とみゑ (一般社団法人HOPE プロジェクト)

私たちは日系ブラジル人児童生徒の読解教材をここ数年作成しています。今回発表する教材は、初めて作成した動画教材です。日系ブラジル人児童生徒だけでなく、外国人児童生徒の読解教材に関心のある方、動画教材に関心のある方と、今後の動画教材のあり方について考えていければと思っています。興味のある方はぜひお越しください。

## ②教師は学習者の外化をどのようにサポートできるか

浅津嘉之 (関西学院大学), 田中信之 (富山大学), 中尾桂子 (大妻女子大学)

「学習者の外化をどのようにサポートできるか」考えています。ピア・レスポンスのような外化が求められる活動で、発言が少なかったり、話に入らなかつたり／入れなかつたりする人がいる時、教師は関わり方や活動をどのように工夫できるでしょうか。同じような経験や悩みについて一緒に考えませんか。

## ③日本語参照文法

ヨフコバ四位 エレオノラ (富山大学)

日本語文法の自律学習のための web ツールを開発・公開しました。ツールについて、実演・紹介し、皆さんと意見交換をしたいと考えていますので、興味にある方は是非お越しください。

## ④就労者に対する日本語教育 (SJ) におけるアーティキュレーションの構築—ツールとしての「SJ 学習の記録」の有用性と課題について—

品田潤子 (BPC 研修サービス), 住吉尚子 (成城大学), 加藤淳 (名古屋大学), 栗又由利子 (きぼう国際外語学院), 時野加奈子 (名古屋大学大学院院生)

外国人就労者は、異なる機関で移動しながら日本語を学びます。その学びに関わる関係機関の連携 (アーティキュレーション) が重要です。私たちは、そのツールとして、CEFR の ELP に該当する「SJ 日本語学習の記録」を提案します。今回は、「介護」と「製造業」を例に、その有用性、課題について議論したいと思います。

## ⑤大学生による大学生のための「やさしい日本語」の作り方動画の紹介

辻本桜子 (甲南大学)

通常の日本語より語彙、文法をやさしく言い換えて作る「やさしい日本語」には、いくつか作り方のルールがあります。本出展では、出展者が監修した、メディア専攻の日本人大学生による7本の「やさしい日本語」の作り方動画の紹介を行います。動画の感想についてお聞きし、使い方について皆さまと意見交換ができればと思います。ぜひお立ち寄りください。

## ⑥「インペアメント文化」から始まる新しい多文化共生

宮崎康支 (関西学院大学), 松岡克尚 (同), 原順子 (四天王寺大学)

私たちは、障害のある人が環境の中で紡ぎだす生活様式を「インペアメント文化」として捉え、多様性の中でそうした人々が生き活きと生活するための多文化共生教育・啓発プログラムの開発を目指しています。「ダイバーシティ」の実践や研究をもっと深めたい方は、ぜひお越しください。

## ⑦やさしい日本語による外国人就労者への学習支援を考える—宮地裕基金人材育成研修講座「地域の外国人就労者に対するやさしい日本語を用いた学習支援のための研修会」の開催成果から—

飯嶋美知子 (北海道情報大学), 金庭香理 (札幌国際大学)

やさしい日本語による地域の外国人就労者への学習支援に関する研修会の開催成果に基づき、日本語教育関係者、地域の外国人支援者がどのような問題意識を持っているのか、外国人就労者に対しどのような学習支援が必要と考えているのかを、検討したいと思います。学習支援、教材開発等に興味のある方々はぜひお越しください。

## ⑧技能実習生向け e ラーニング学習サイト「Act Study」の実践報告

永富聡 (国際教養大学大学院生), 田代匠 (有限会社エニワン)

私達、アクト事業協同組合では2021年から技能実習生の日本語教育をすべてタブレットで実施してきました。国内外含め、これまで約500名の実施データの報告とともに、学習コンテンツの改善案や、これからの課題、将来の可能性など自由に意見交換ができればと考えています。

**⑨ Moodle を用いたオンライン日本語教材「ここから」の開発と活用**

工藤嘉名子（東京外国語大学）、木下瑞紀（同）

私たちは Moodle を用いて、中級前半レベルの学習者を対象とした自学自習のためのオンライン日本語教材「ここから」を開発しています。Moodle で教材を作成する際の工夫や本教材の活用方法などについて、参加者の方と一緒に考えてみたいと思います。オンライン教材開発やブレンド型授業にご興味のある方はぜひお越しください。

**⑩地域で学ぶ短期集中日本語プログラムの評価のあり方**

住田環（立命館アジア太平洋大学）、渡辺若菜（同）、板井芳江（同）、深山道助（同）

私たちは、春休みの2週間を使い、地域の公民館を教室に、短期集中日本語プログラムを行っています。地域に入って学ぶ観点を取り入れた日本語プログラムについて興味のある方々と、特に評価のあり方について意見交換ができればと考えています。ぜひ、足をお運びください。

**⑪生成 AI によるスピーキング能力評価の試み**

高久文枝（早稲田大学大学院生）、李在鎬（早稲田大学）

私たちは、日本語スピーキングテストにおいて、人間による評価と、生成 AI による評価を比較・分析し、生成 AI の評価ツールとしての有効性を研究しています。自動採点に関する様々な研究事例を紹介しつつ、発音や文法、語彙、流暢さ等、どの要素において生成 AI による評価が可能か、もしくは人間にしかできない評価か等、日本語教育に携わる多くの方々と意見交換をしたいと思っております。

**⑫外国にルーツをもつ子どもが日本語で学ぶ力を身につける「日本語×教科」デジタル教材開発を目指した試み—国語科の教材のあり方を考える—**

森下みゆき（ベネッセ教育総合研究所）、小野塚若菜（同）

私たちは、外国にルーツをもつ子どもの指導・支援にあたる方へのインタビューや授業見学等を通して、日本語と教科学習を支援するデジタル教材開発を検討しています。これまで中学の数学科の教材試案を作成、現在、国語科教材のあり方を考えております。日本語学習と国語学習についてどのような連携が可能か、皆様と一緒に考えたいと思います。

## 後半【15:45～17:15】

## ⑬交換留学生に対する合理的配慮の取り組み—教職員および学内組織との連携と課題—

山本真理 (関西学院大学), DANTE Amina (同)

私たちは交換留学生に対する合理的配慮の対応について、教職員が連携しながら仕組み作りをしてきました。現在の取り組みとそれに至る仕組み作りのプロセスをご紹介・共有したいと考えています。まだまだ課題もありますが、ぜひたくさんの方と一緒にディスカッションができればと思います。お越しください。

## ⑭語彙の定着を促進するAIを用いた動的な語彙テストについて

松井佑樹 (早稲田大学大学院生)

私は、日本語教育の多くの客観テストが静的かつ一方的な形式で行われていることや、学習者の言語リソースを十分に活用できていない現状に課題を感じ、研究をしています。具体的には、ダイナミック・アセスメントの考えに基づいた語彙テスト用チャットボットを生成AIを利用して作成し、研究を進めています。AIを含むITツールの活用などにご関心のある方はぜひお越しください。

## ⑮地域在住外国人の意欲に応え、支える日本語学習環境作りの取り組み

中上亜樹 (学習院大学), 金田智子 (同), 唐木澤みどり (同), 渡辺陽子 (同), 良永朋実 (東京外国語大学)

私たちは、文化庁委託地域日本語教育実践プログラム(2024年度より文部科学省移管)及び学習院大学地域日本語教育事業として、①地域在住外国人に対する日本語教育、②「生活」場面の日本語指導ができる人材の育成、③理解促進を目指したシンポジウムの開催、を実施してきました。皆様と地域日本語教育の方法や課題、可能性について意見交換できればと思っています。

## ⑯外国人住民のための「やさしい日本語」によるAED使用法と心肺蘇生法講習会の開催

栗山こまよ (道活), 辻本桜子 (甲南大学)

私たちは防災士の資格を持つ日本語教師で、外国人住民のため「やさしい日本語」で、AED使用法と心肺蘇生法についての冊子を作成しました。そして、その冊子を用い、消防署職員と地域の日本語教室の協力のもと、外国人住民を対象に講習会を開催しました。私たちと同様に、外国人のための防災や命を守る行動に興味を持つ皆さまと、意見交換ができればと思います。

## ⑰日本語非母語話者の聴解コーパスの利用方法

阪上彩子 (奈良教育大学), 首藤美香 (兵庫県立大学)

「日本語非母語話者の聴解コーパス」は、日本語非母語話者に日本語で話されたことを聞いてもらいながら、その理解過程を母語か母語に準じる言語で話してもらい、それを文字化し、日本語訳をつけたものです。このコーパスを使ってどのような研究ができるか一緒に話したいです。

## ⑱オンラインコース「アニメ・マンガの日本語 B1B2 (ブラック・ジャック) 自習コース」の活用を考える

石井容子 (国際交流基金関西国際センター), 三宅直子 (同), 北口信幸 (同)

「アニメ・マンガの日本語 B1B2 (ブラック・ジャック) 自習コース」は2024年7月に日本語学習プラットフォーム「JFにほんごeラーニングみなど」で開講した、手塚治虫のマンガ『ブラック・ジャック』の一話を読んで楽しむコースです。当日はコース内容を紹介するとともに、教育現場での活用などについて皆さんと意見交換できればと思います。

## ⑲日本語教育関係者のためのジェンダーへの気づき

加藤恵梨 (愛知教育大学)

普段見聞きしたり、使用している日本語表現の中に、性別による「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)」がひそんでいないかについて一緒に考えませんか。興味のある方はぜひお越しください。

## ⑩対等性を重視したコミュニケーション活動の紹介—日本語教材の視点から—

藤森弘子（帝京大学）、前田真紀（東京外国語大学）、高村郁子（東京工科大学附属日本語学校）

私たちは多文化共生社会に向けて「親しくなるための日本語」を目指した教材開発を行っています。当日は実際に試用版の中の活動を紹介してご意見やコメントをいただけたらと思います。モジュール型でイラストが豊富な点が本教材の特徴です。ぜひ見に来てください。

## ⑪自己表現・他者理解のためのデジタル・ストーリーテリング（DST）—地域の中学校での実践例をもとに—

半沢千絵美（横浜国立大学）、寺尾綾（同）、山森理恵（明治大学）

私たちは、自己表現・他者理解・多文化理解を目的とし、デジタル・ストーリーテリング（DST）を用いた実践を行ってきました。対話を重視した DST は、教育機関や地域を含む多様な現場での活用が可能です。そこで具体的な方法（パンフレット）を参加者と共有し、それぞれの現場での活用について、一緒に考えたいと思っています。

## ⑫学習者とボランティアの会話練習を中心とした初学者向け地域オンライン日本語教室実施の試み—生活者向け日本語学習サイト「つなひろ」を活用して—

黒田亮子（国際交流基金関西国際センター）、笠井陽介（同）、岸俊之（大阪国際交流センター）、植松夕紀子（同）

大阪国際交流センターでは、はじめて日本語を勉強する生活者を対象に「つなひろ」を使ってボランティアとともに学ぶ「オンライン日本語教室」を実施しており、JF 関西国際センターはその立ち上げや実施を講師として支援してきました。この取り組みを紹介し、地域オンライン日本語教室の運営やボランティアとの協働について意見交換したいと思います。

## ⑬360度動画・画像を活用した「ホームビジット A1 自習コース」—その特徴と教育現場における活用方法について—

中尾有岐（国際交流基金関西国際センター）、岡本拓（同）

「ホームビジット A1 自習コース」は 2024 年 2 月に「JF にほんご e ラーニング みなと」で開講したコースです。360 度動画・画像を使って家を訪問する際に役立つフレーズを学んだり、3 種類の日本の家を見比べたりすることができます。当日はコース概要と教育実践例を紹介し、みなさんの教育実践に活かす方法についてアイデア交換したいと思います。

## ⑭初級教科書における質問文を考えてみよう—「どう」を用いた質問に注目して—

長谷川由香（法政大学）、堀恵子（東洋大学）、世良時子（上智大学）、木林理恵（敬和学園大学）

私たちは学習者の質問力を高めることを最終目標として、現在日本語教科書に現れる質問文のタイプについて調査を行っています。今回は「どう」を用いた質問文にはどのようなものがあるか皆さんに考えていただいた上で、初級の教科書に現れる「どう」質問の形式や意味機能について紹介し、教育現場での扱い方について意見交換を行いたいと思います。

2024 地域発信 in 関西

増える外国ルーツの市民

— 近畿における共生のあり方 —

前半 [12:10 ~ 12:40 (30分)]

| ブース 1   | ブース 2   | ブース 3   |
|---|---|---|
| 3階 大ホールホワイエ   | 3階 大ホールホワイエ   | 3階 大ホールホワイエ                                     |
| <p>①播磨町日本語教室の立ち上げと活動実践について</p> <p>【播磨町・播磨町国際交流協会・(公財)兵庫県国際交流協会】</p> | <p>②移民家族と歩む大阪ミナミの学習教室</p> <p>【Minami こども教室 (和歌山工業高等専門学校)】</p> | <p>③外国人差別のない地域づくりを目指して</p> <p>【茨木市人権・男女共生課】</p> |

後半 [12:50 ~ 13:20 (30分)]

| ブース 1   | ブース 2                                      | ブース 3  |
|---|--|--|
| 3階 大ホールホワイエ   | 3階 大ホールホワイエ                                | 3階 大ホールホワイエ  |
| <p>④多言語多文化交流と子どもの日本語支援</p> <p>【NPO 法人多言語・多文化サポートICHI】</p> | <p>⑤つどう場こうべ、始動!</p> <p>【NPO 法人つどう場こうべ】</p> | <p>⑥文化庁委託事業 やってみようプロジェクト ワークショップ にほんごであそぼう!</p> <p>【小野市国際交流協会】</p> |

※参加費：無料，事前申込不要。直接会場へお越しください。  
本プログラムは，大会参加者以外の方でもご参加いただけます。

### ●会場周辺地図

所在地：姫路市総社本町112番地



### ●公共交通機関

最寄り駅は「JR姫路駅」です。徒歩約15分。

### ●駐車場

市民会館に駐車スペースはありません。車でご来館の際は、周辺の公営駐車場など、有料駐車場をご利用ください。

### ●姫路市市民会館のURL

<https://himeji-machishin.jp/toshi/commu/shiminnkaikann/>



